

4月中旬～5月中旬, 中越平場および頸城山沿は5月上旬～6月上旬, 頸城高冷地, 三島, 新潟周辺は6月下旬～7月中旬, 中, 下越沿岸部および魚沼山間平野は7月中旬～9月上旬, 下越北部平場は1月上旬～2月中旬, 魚沼高冷地は5月下旬～8月上旬である。

今参考のために, 階級別旬別日照時間の月間出現頻度の最多階級の地理分布を第6図に示してあるが, この分布図からもしられるごとく, この様なことは累年平均値から推定することは不可能である。

われわれはとかく累年平均値をもって平均値とするこ

とが多く, 平均値とは, ごく普通にあらわれる値であると言う。今までの様な常識的な考えをした場合は累年平均値をもって平年値とすることは妥当であったかもしれない。

しかし前報でものべたごとく, 日照時間からみた結果では累年平均値をもって平年値とすることは妥当でないのであるから, 産業計画にあたっては, 資料のとりあつかいについては慎重を期すべきである。

(1962.12.25)

## 理事会便り

### 理事会, 評議員会合同会議議事録

日時 昭和39年1月14日(火) 1730～21.00

場所 神田学士会館

出席者 正野, 畠山, 吉武, 淵, 須田, 村上, 有住, 岸保, 神山, 松本, 桜庭, 増田, 今井 各常任理事

倉石, 堀内, 藤田, 北岡, 各地方理事

和達, 岡田, 大谷, 鯉沼, 紫田, 磯野各評議員

高橋(浩) 監事, 高橋(喜) 委員(順序不同)

常任理事13名, 地方理事4名で理事会は成立するので正野理事長が議長席につき, 本日は理事会に評議員の方々をお招きして合同で重要議題につき御意見, 御検討をお願いしたき旨の挨拶の後合同会議が開始された。

#### 決議

1. 国際雲物理会議については高橋(喜)委員の報告に基き, 組織委員会において再検討する。
2. 日本気象学会事務局の今後のあり方については当面の間気象協会に依頼することを検討する。
3. 大気物理研究所の設立要望については長時間種々の意見発表交換の後, わが国における大気物理研究体制を検討する委員会を設けることとし, 委員の選定については常任理事会に一任する。
4. 昭和39年度の月例会については「大気海洋間相互作用」を追加して原案どおり承認された。